集中豪雨による浸水リスクを軽減し

災害に強い街づくりに貢献する

下水道情報管理システム「ASSYS」（アスシス）

日本インシーク

下水道施設のストックマネジメントを支援！

日本インシーク（大阪市中央区南本町三―六―一四・イトゥビル、☎〇六―六二八二―〇三一四）が上下水道インフラを管理・制御することで災害に強い街づくりを目指すというコンセプトから開発した下水道情報管理システム「ASSYS」（アスシス）が注目を集めている。

①上下水道、電力を主とするライフライン事業②防災・減災に対してハード・ソフトの両面からサポートする防災インフラ事業③交通インフラ事業④測量・空間情報処理を行う空間事業⑤発注作業の支援などを行うCM事業――の5事業を中心とした総合建設コンサルタント事業を長年にわたって展開している。

昨今の集中豪雨の増加や都市部を中心とした土地利用の高度化などにより、町や建物の浸水被害が毎年発生している。

同社では、集中豪雨による浸水リスクに備えるため、①浸水シミュレーションを活用した浸水対策②河川と下水道の一体解析による浸水対策③レーザースキャナで微地形を計測した浸水シミュレーションによる効率的な浸水対策④内水ハザードマップの作成――などを実施し、浸水被害の軽減を図ってきた。

さらに、様々な情報を一元化し、下水道施設のストックマネジメントを確立することで更なる被害の軽減に役立つのが同社の開発した下水道情報管理システム「ASSYS」。災害に強い街づくりに貢献する。

「ASSYS」は、従来の下水道台帳が持つ施設の基本情報や地図・図面情報に、流量情報、維持管理情報、劣化調査情報、診断情報、地震対策情報、改築・修繕工事履歴などを合わせ、データを一元管理するシステムである。

様々な情報を一元管理する同システムの導入により、下水道施設の包括的管理業務を効率化することはもちろん雨水の管理計画、上下水道のBCP（地震・津波）、下水道のICT活用までも実施することができる。

登録されたデータを基にストックマネジメント計画策定に必要な劣化予測分析、リスク評価、優先度判定による点検調査計画、改築シナリオなどを支援機能を用いて作成できる。特に改築シナリオでは、様々な種類のシミュレーションを実施することができる。

さらには、計画策定により決定した点検時期や調査時期を管きょ施設データベースに反映させることが可能であり、台帳図から対策時期を確認することができる。

災害復旧機能も装備されており、被災時の施設の復旧計画の効率化、低コスト化も実現する。

管きょやマンホールなどの施設の追加・編集も簡単に行えるため、下水道担当部署の職員が手軽に台帳更新できる。

また、同社では上水用の「ASSYS」、「道路保全システム」などの多種GISも揃えている。

http://www.insiek.co.jp/

ASSYSの出力画面例

ASSYSによる地上・地下空間の浸水シミュレーションイメージ図